

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。
詳細レポート全体につきましては[弊社ウェブサイト](#)をご覧ください。

2019年5月14日、ナノキャリア株式会社は、2019年3月期通期決算を発表した。

四半期累計 (百万円)	18年3月期				19年3月期				19年3月期 (進捗率) 通期会予	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q		
売上高	36	71	139	259	42	218	336	497	104.8%	474
前年比	-7.0%	-15.9%	-3.6%	18.5%	18.1%	209.0%	142.0%	91.7%		82.9%
売上総利益	23	49	98	191	22	177	276	417		
前年比	-3.7%	-11.2%	5.1%	21.3%	-1.7%	262.8%	180.7%	118.0%		
売上総利益率	63.7%	69.2%	70.9%	73.8%	53.1%	81.2%	82.2%	83.9%		
販管費	1,284	2,129	4,795	5,543	663	1,106	1,750	2,219		
前年比	101.2%	59.9%	136.7%	93.1%	-48.4%	-48.1%	-63.5%	-60.0%		
売上高販管費比率	-	-	-	-	-	-	-	-		
営業利益	-1,262	-2,080	-4,697	-5,351	-641	-928	-1,473	-1,802	-	-2,199
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-		-
営業利益率	-	-	-	-	-	-	-	-		-
経常利益	-1,265	-2,054	-4,651	-5,304	-636	-911	-1,461	-1,774	-	-2,188
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-		-
経常利益率	-	-	-	-	-	-	-	-		-
四半期純利益	-1,260	-2,049	-4,632	-5,417	-637	-910	-1,460	-1,809	-	-2,245
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-		-
四半期利益率	-	-	-	-	-	-	-	-		-

四半期 (百万円)	18年3月期				19年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	36	35	68	120	42	176	118	161
前年比	-7.0%	-23.4%	13.7%	60.9%	18.1%	403.5%	72.8%	33.7%
売上総利益	23	26	50	93	22	155	99	141
前年比	-3.7%	-16.9%	28.2%	45.0%	-1.7%	492.6%	99.9%	51.5%
売上総利益率	63.7%	74.7%	72.7%	77.2%	53.1%	88.0%	84.1%	87.4%
販管費	1,284	845	2,667	747	663	443	644	469
前年比	101.2%	21.9%	283.8%	-11.5%	-48.4%	-47.6%	-75.8%	-37.2%
売上高販管費比率	-	-	-	-	-	-	-	-
営業利益	-1,262	-819	-2,617	-654	-641	-288	-545	-329
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-
営業利益率	-	-	-	-	-	-	-	-
経常利益	-1,265	-789	-2,597	-653	-636	-275	-549	-314
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-
経常利益率	-	-	-	-	-	-	-	-
四半期純利益	-1,260	-790	-2,582	-785	-637	-273	-550	-348
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-
四半期利益率	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：会社データよりSR社作成

*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

*会社予想は直近の値。

*前年比が100%を超える場合は-として表示。

販売費及び一般管理費の内訳

四半期累計 (百万円)	18年3月期				19年3月期			
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
研究開発費	1,144	1,852	4,376	4,979	532	879	1,424	
前年比	131.0%	76.6%	171.1%	121.1%	-53.5%	-52.5%	-67.4%	
研究開発費を除く販管費	140	277	420	563	131	226	325	
前年比	-1.9%	-1.9%	1.9%	-8.9%	-6.6%	-18.2%	-22.5%	

四半期 (百万円)	18年3月期				19年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
研究開発費	1,144	708	2,524	604	532	347	545	
前年比	131.0%	27.9%	346.5%	-5.3%	-53.5%	-51.0%	-78.4%	
研究開発費を除く販管費	140	136	143	144	131	95	99	
前年比	-1.9%	-1.9%	10.3%	-30.4%	-6.6%	-30.1%	-30.8%	

出所：会社データよりSR社作成

*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

2019年3月期通期決算実績

売上高は497百万円（前期比91.7%増）、営業損失は1,802百万円（前期は営業損失5,351百万円）、経常損失は1,774百万円（前期は経常損失5,304百万円）、当期純損失は1,809百万円（前期は当期純損失5,417百万円）となった。

売上高は、開発マイルストーン収入、化粧品材料供給収入、化粧品売上等により増収となった。営業利益以下の各利益は、増収効果に加え販売費及び一般管理費が2,219百万円（前期比60.0%減）となったことで増益となった。

主要パイプラインの現況

シスプラチンミセル（NC-6004ナノプラチン®）

ライセンス先であるOrient Europharma Co. Ltd.（以下、OEP社）と共に、日本を含むアジア地域で膀胱がんを対象に第III相臨床試験を実施している。2019年4月に統計学的に解析可能な患者症例数に達したことから、患者登録を完了し、現在も登録患者への治験薬投与を継続している。

頭頸部がんについては台湾においてOEPが第I相臨床試験を、欧米において同社が第I/II相臨床試験を各々行っていたが、2018年5月、アジアおよび欧米の地域を統合して、OEPと共に改めて免疫チェックポイント阻害剤との併用による臨床試験を実施することで合意し、2018年7月に正式にライセンス契約を締結した。現在、NC-6004と免疫チェックポイント阻害剤「キイトルーダ®」との併用による国際共同臨床試験として展開するため、2018年10月に頭頸部がんを対象とした第II相臨床試験に関する治験計画届出書（IND）を米国食品医薬品局（FDA）に対して提出し、さらに、2019年1月に欧州地域のそれぞれの規制当局に対し同試験に関する治験許可申請（CTA）を提出し受理されている。今後は台湾においてもOEPが台湾食品医薬品監督署（TFDA）に対してINDを提出し、患者登録を進める予定である。

米国においては、第II相臨床試験（バスケットデザイン試験）として非小細胞肺癌、膀胱がん、胆道がんの3適応症を対象に実施し、2019年4月に解析結果を受領した。有効性については既存のシスプラチン・ゲムシタビン療法と同程度であり、副作用については、既存のシスプラチンに類似しており、発生頻度や重症度は改善され、良好な忍容性が認められた。今後は、同剤のさらなる医薬品としての価値向上を図るための開発に注力するとしている。

遺伝子治療薬「VB-111」

2017年11月にVascular Biogenics Ltd.（イスラエル）から国内の開発および販売権に関するライセンスを受けた遺伝子治療薬「VB-111」について、同社が米国を中心に実施していた再発悪性神経膠芽腫（rGBM）を対象とする第III相臨床試験の結果について、2018年3月に、VB-111とアバスチン（一般名：ベバシズマブ）の併用投与群とアバスチン単独投与群との間における生存期間に差がみられなかったことが、VBLより発表された。VBLは、第II相臨床試験で良好な成績が得られている状況から、VB-111単独の先行投与（プライミング投与）が必要であるとの仮説を打ち出しており、詳細な画像解析等を実施している。また、VBLはこれと併行して、仮説検証を含めたrGBMに対する医師主導の第II相臨床試験を2019年春頃に開始する計画である。さらに、VBLは消化器がんを対象にした免疫チェックポイント阻害剤との併用による共同臨床試験を2019年後半に実施する計画を発表した。同社はVBLが実施しているプラチナ耐性卵巣がん第III相臨床試験を含め、試験進捗情報を随時取得し、中間解析結果を詳細に考察し、日本国内における開発方針を検討する。

エピルピシンミセル（NC-6300）

米国で軟部肉腫を対象に第I/II相臨床試験を実施している。2018年12月、第I相パート試験において、同製剤の安全性および忍容性が認められ、主要評価項目を達成した。現在は第II相パート試験に移行すべく準備を行っている。同剤もFDAよりオーファンドラッグの指定を受けている。

耳鼻科領域における新医薬品等の開発候補品

2018年6月より、セオリアファーマ株式会社との間で締結した共同開発契約に基づき、準備を進めてきた耳鼻科領域における新医薬品等の開発候補品については、2018年12月、第III相臨床試験に関する治験計画届書を独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に提出し、受理されている。同剤は短期間で製造販売承認を取得し、製造から販売までの一貫体制による医薬品の早期提供を目指す。

パクリタキセルミセル（NK105）

日本を含むアジア地域を対象としたライセンス先である日本化薬株式会社（東証1部4272）から、2018年2月に、乳がんを対象に第II相臨床試験を開始した旨が発表されている。

新規開発パイプライン

同社独自の先進基盤技術である抗体/薬物結合型ミセル「ADCM（Antibody/Drug-Conjugated Micelle）」を次世代型DDS医薬品技術として開発を推進している。抗がん剤を内包しセンサーとなる抗体を結合したActive型ミセル化ナノ粒子は標的とするがん細胞へのターゲティング性能を高め、抗腫瘍作用をさらに高めることで治療域を拡大することが期待されている。

低分子医薬品に加え、より副作用が少ないとされているsiRNAなどの核酸についても、独自の核酸のデリバリー技術確立し、さらに抗体を付加したActive型とすることでターゲティング機能を向上させた核酸医薬品の開発を進めている。

また、技術進化として新規センサーの検討に向けた共同研究なども実施しており、ADCMの最適化やさらなる発展を目指している。JCRファーマ株式会社と核酸等を対象とした脳内デリバリー創薬に関する共同開発契約を締結し、同社のADCM技術や、JCRファーマ社が有する脳内に薬剤を届けるための独自技術であるJ-Brain Cargo[®]（血液脳関門通過技術）など、両社が持つ技術や知見を融合し、革新的な脳内デリバリー医薬品の実現を目指した共同開発を推進している。

事業開発の状況

2018年4月には、同社はノーリツ鋼機社およびジーンテクノサイエンス社との間で事業化ノウハウを組み合わせたバイオ事業の創出を目的とした業務提携契約を締結した。さらに、同社はノーリツ鋼機社が間接的に100%の持分を保有するノーリツ鋼機バイオホールディングス合同会社が所有する株式会社ジーンテクノサイエンスの普通株式500,000株を取得し資本参加するとともに、ノーリツ鋼機バイオホールディングス合同会社が同社の普通株式1,500,000株を取得する資本提携を行った。

また、2018年1月より、セオリアファーマ株式会社との間で締結した業務提携に向けた検討を行っていたが、その一環として、2018年6月に共同開発契約を締結した。上述の通り、同契約に基づき、耳鼻科領域における第III相臨床試験の早期の患者登録を目指す。

さらに、2019年4月、株式会社エイオンインターナショナルとの間でエイオンインターナショナル社の再生医療用PRP（血小板濃縮血漿）分離器である「Aeon Acti-PRP」の国内販売代理店契約を締結した。国内においては産婦人科PRP研究会が発足されており、臨床研究が行われている。不妊症患者の血液からPRPを分離して子宮内注入することにより不妊症の治療を目指すもので、国内初の新規事業として展開する予定である。

化粧品事業の状況

アルビオン社との共同開発製品であるスカルプトータルケア製品「Depth」のインターネット販売及び美容室でのカウンセリング販売を行っている。大手百貨店や化粧品専門店の他、全国の美容室へ取扱い店舗を拡大するとともに、インターネット販売においてはECサイト、SNSやメールマガジン等を活用したオムニチャネル化を推進している。

アルビオン社が販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシアALホワイトニングイマキュレートエッセンスIDD用の原材料を供給している。アルビオン社とは、次世代型エクラフチュールの開発に向けた共同研究開発も進めており、その成果として、2018年10月に「エクラフチュールd」がアルビオン社より発売された。「エクラフチュールd」には、同社が開発した肌細胞への吸着に着目した化粧品用ミセル化ナノ粒子「ナノセスタEX」を用いた原材料を供給している。また、化粧品開発における皮膚浸透性の研究から、皮膚科領域における医薬品開発の可能性を見いだしており、今後、皮膚科領域での医薬品にも応用展開を目指す。

今期会社予想

19年3月期予想 (百万円)	18年3月期 通期実績	19年3月期 通期実績	20年3月期 通期会予
売上高	259	497	581
前年比	18.5%	91.7%	17.0%
売上原価	68	80	
売上総利益	191	417	
前年比	21.3%	118.0%	
売上総利益率	73.8%	83.9%	
販売費及び一般管理費	5,543	2,219	
営業利益	-5,351	-1,802	-1,520
前年比	-	-	-
営業利益率	-	-	-
経常利益	-5,304	-1,774	-1,536
前年比	-	-	-
経常利益率	-	-	-
当期純利益	-5,417	-1,809	-1,450
前年比	-	-	-

出所：会社データよりSR社作成

2020年3月の会社予想は、売上高581百万円（前期比17.0%増）、営業損失1,520百万円（前期は営業損失1,802百万円）、経常損失1,536百万円（前期は経常損失1,774百万円）、当期純損失1,450百万円（前期は当期純損失1,809百万円）としている。

このリサーチメモは、掲載企業の[最新版レポート](#)にも掲載されています。

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

ディスクレーム

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。SR Inc.の役員および従業員は、SR Inc.の調査レポートで対象としている企業の発行する有価証券に関して何らかの取引を行っており、または将来行う可能性があります。そのため、SR Inc.の役員および従業員は、該当企業に対し、本レポートの客観性に影響を与える利害を有する可能性があることにご留意ください。

金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.
東京都文京区千駄木3-31-12
HP: <https://sharedresearch.jp>
TEL : (03)5834-8787
Email: info@sharedresearch.jp